

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第491号 平成26年5月・6月



『見納の吉野梅林』 坂本 保己

目 次

	頁		頁
1) 川口卓治先生を偲んで	土屋輝昌 … 2	9) 第6回西多摩認知症医療連携委員会報告	江本 浩 … 11
2) 感染症だより	西多摩保健所 … 3	10) 第12回西多摩医師会臨床報告会 学術部	… 12
3) 第2回西多摩保健医療圏 地域災害医療連携会議報告	江本 浩 … 5	11) 専門医に学ぶ	武田良淳 … 14
4) 小・中学校における結核検診について	宮城真理 … 6	12) 同好会短信 ゴルフ部だより	渡邊哲哉 … 16
5) 広報だより 月のオーナー	渡邊哲哉 … 7	13) 学術講演会予定	学術部 … 17
6) 連載企画 サーファーズズイヤー	松本 学 … 8	14) 理事会報告	広報部 … 17
7) 診療報酬点数改定に伴う講習会	安部 学 … 8	15) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 25
8) 学術部インフォメーション	学術部 … 9	16) 表紙のことば	坂本保己 … 29
		17) あとがき	馬場真澄 … 29
		18) お知らせ	事務局 … 30

追悼

川口卓治先生を偲んで

医療法人社団 光輝会 理事長 土屋 輝昌

在宅医療を中心にした地域医療に誠心誠意取り組まれ、まさに命を捧げられてきた川口卓治先生が、お亡くなりになりました。慎んでご冥福を、お祈り申し上げます。

先生は、医療法人社団教人会ならびに社会福祉法人積善会を、創設されました。医療・介護保険制度における在宅医療や在宅介護がシステム化されるかなり前から、現場でご苦労されてきました。

先生は、日曜日も祝日も外来診療と訪問診療に日夜取り組まれ、年末年始も往診をしておられました。「いつ休まれるのですか」と質問したところ、「何年間も1日も休んでいません」、「ご趣味はなんですか」とお聞きしたところ、「往診が趣味です」ということでした。このような数々の伝説となるお言葉に、私は驚きと敬意の念を抱きました。

医師会においては、在宅医療連絡会を主催され、私どもをご指導いただきました。毎月開催される会議の前には、必ず私どもの医療機関を訪問され、長時間の事前打ち合わせをし、本会議では3時間以上におよぶ熱い議論と検討が行われました。私が、「会議は、1時間以内に簡潔に収めましょう」と、何度も上申しましたが、内容は増える一方でした。今

から思うと、ご自分の余命を察知された上で、在宅医療連絡会を一日も早く軌道に乗せようと急いでおられたのではないかと推察されます。

病状が明らかになった頃に、奥様とご一緒に私どもの医療機関を訪問され、「これからは、家族を大切にしようと思います」、「在宅医療連絡会をよろしくお願いします」

というお話しがありました。あまりの変容ぶりに、涙をこらえるのがつらかったことを、今でも鮮明に覚えております。

御茶ノ水の病院にて治療中にお見舞いに伺った時には、かなり痩せておられました、

散歩もできるとのことでした。しかし、病状が悪化し、青梅の病院に入院された時には、もう二度とお会いできないのではないかと思います、ご家族にお願いして特別に面会をさせていただきました。混濁する意識の中で、往診のことをお話しになっておられたそうです。

先生が残された偉大な事業が、さらに発展していくことを心より祈念いたします。ご恩を受けた私どもは、先生のご遺志を継承していかなければならないと肝に銘じております。先生の穏やかで優しい目で、天国から私どもを末永く見守っていただきたいと思います。

合掌。



感染症だより

〈全数報告〉

第7週(2.10-2.16)から第10週(3.3-3.9)の間に、管内医療機関より以下の報告がありました。
 (二類感染症) 結核2件
 (肺結核2件)

〈管内の定点からの報告〉

	7週	8週	9週	10週
	2.10～2.16	2.17～2.23	2.24～3.2	3.3～3.9
RSウイルス感染症			3	2
インフルエンザ	323	317	322	296
咽頭結膜熱	1	1		7
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	16	28	14
感染性胃腸炎	21	19	30	30
水痘		7	1	6
手足口病				
伝染性紅斑			1	1
突発性発しん		1	1	1
百日咳				
ヘルパンギーナ				
流行性耳下腺炎	2	2	1	1
不明発疹症				
MCLS				
急性出血性結膜炎				
流行性角結膜炎				
合計	353	363	387	358

基幹定点報告対象疾病

〈細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く)、感染性胃腸炎(ロタウイルス)マイコプラズマ肺炎1件(10～14歳1件)、感染性胃腸炎(ロタウイルス)1件(1～4歳1件)〉

〈コメント〉

① 東京都内で麻しん発症者が増えています。

東京都内の2014年第10週の麻しん患者報告数は8人で、第1週から第10週までの報告数は計27人となりました。2月下旬以降発症者が急増しています。西多摩保健所管内ではまだ患者報告はありません。PCRによる麻しんウイルス遺伝子検査は、8例中7例で実施され、7例全てが陽性となりました。遺伝子型は7例全てがB3型でした。

全国では2014年にB3型73件、D8型4件、D9型2件が報告されています(2014年2月28日現在)。

感染源の特定できない事例が増加しており、今後は流行が拡大することを念頭に、患者発生時の迅速な対応と検体検査での確実な診断を実施することが重要と考えられます。また、医療機関内での感染を防止するため、職員は麻しんへの免疫を獲得することが求められます。

麻しんの確定診断には遺伝子検査が不可欠です。麻しん患者の発生に際して、患者さんの協力が得られた場合には、是非速やかな検体確保へのご協力をお願いします。

② A型肝炎が増えています

全国のA型肝炎患者報告数は、平成19年以降は年間150例前後で推移してきましたが、2014年は、第14週までに111例の報告がありました。第10週以降の報告数が例年より多くなっています。A型肝炎は、糞便中にウイルスが排出され、水や食品等を介して経口感染します。大量調理施設(弁当屋、仕出し屋、旅館、学校、病院等)では特に注意が必要であり、すでに調理従事者の衛生管理等について周知、徹底を行うよう通知しています。

A型肝炎は潜伏期が長く、感染源の遡り調査が困難であることから、患者発生時には原因究明のための調査に加え、検体の確保について引き続きご協力いただきますようお願いいたします。

文責：東京都西多摩保健所保健対策課

感染症だより

〈全数報告〉

第11週(3.10-3.16)から第15週(4.7-4.13)の間に、管内医療機関より以下の報告がありました。

(二類感染症) 結核 4件

(肺結核 2件、結核性胸膜炎 1件、無症状病原体保有者 1件)

(三類感染症) RSウイルス感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1件

(五類感染症) アメーバ赤痢 1件

〈管内の定点からの報告〉

	11週	12週	13週	14週	15週
	3.10～3.16	3.17～3.23	3.24～3.30	3.31～4.6	4.7～4.13
RSウイルス感染症	1	1	2	3	
インフルエンザ	301	261	143	98	27
咽頭結膜熱	3	3	3		1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	18	21	9	8
感染性胃腸炎	29	18	28	18	27
水痘		1		1	1
手足口病				1	
伝染性紅斑		2	1		1
突発性発しん	1	2	1	3	3
百日咳					
ヘルパンギーナ					
流行性耳下腺炎	3	2	2	4	3
不明発疹症					
MCLS					
急性出血性結膜炎					
流行性角結膜炎				1	1
合計	350	308	201	138	72

基幹定点報告対象疾病

(細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く)、感染性胃腸炎(ロタウイルス))

感染性胃腸炎(ロタウイルス) 1件(5～9歳 1件)

〈お知らせ〉

① 全国で麻しん患者報告数が増えています。

全国の第1週から第14週までの報告数は253例で、昨年1年間の累積報告数232例を上回りました。

そのうち東京都の報告数は46例で、2割を占めています。

東京都においては第1週から第15週までに54例の報告があり、約7割の32例において、予防接種歴がない又は不明です。年齢階級別でみると10歳未満22例(内、0歳4例)、10代5例、20代4例、30代16例、40代4例、50歳以上3例で、10歳未満が4割、30代が3割と二峰性になっています。保健所別では、足立11例、大田区8例、文京8例などが多く、多摩地域では多摩府中、多摩立川がそれぞれ1例ずつで、西多摩保健所管内ではまだ患者報告はありません。PCRによる麻しんウイルス遺伝子検査は、実施された44例中でB3型31例、D8型8例、D9型2例、A型1例、型別検出不能2例でした。

感染源の特定できない事例が増加しており、今後流行が拡大することを念頭に、患者発生時の迅速な対応と検体検査での確実な診断を実施することが重要と考えられます。また、来院者や職員への麻しんに対する注意喚起や情報提供並びに予防接種の重要性の理解に向けた働きかけなど、ご協力よろしくお願いたします。

② 今シーズンのインフルエンザのウイルス型

インフルエンザ定点からの報告数は減少し、第15週は定点当たり東京都3.05人、西多摩保健所管内1.93人となっています。今シーズン定点医療機関から都健康安全研究センターに搬入された検体の検査結果は、ウイルス陽性の362検体について、AH1pdm09型が166検体(42.9%)、B型164検体(42.4%)、AH3型57検体(14.7%)でした。

文責：東京都西多摩保健所保健対策課

第2回西多摩保健医療圏地域災害医療連携会議報告



平成 26 年 3 月 20 日に青梅市立総合病院講堂に於いて、西多摩保健医療圏地域災害医療連携会議が開催されましたので、ご報告致します。

(1) 地域災害医療コーディネーター肥留川医師からの報告

- ① 昨年度の決定事項および方向性について
- ② 今年度の予定および今後の課題について

緊急医療救護所、医療救護所、避難所の設置、運営。医療救護班の編成、搬送体制の確立など。

- ③ 西多摩医師会災害医療対策委員会が医師会員を対象に行った「西多摩地域に於ける大災害発生時の災害医療計画策定のためのアンケート調査」の結果について報告。

アンケートは 195 施設を対象に行い、158 施設 (81%) より回答が得られた。全体の 81% (福生ブロック 75%、青梅ブロック 83%、あきる野ブロック 75%) が何らかの医療救護活動に参加したいと回答。緊急医療救護所 (拠点病院近接) での活動参加可能な医師は全体の 62% (福生 B53%、青梅 B71%、あきる野 B61%)。医療救護所 (避難所隣接) での活動参加可能な医師は全体の 74% (福生 B74%、青梅 B77%、あきる野 B67%)。自身の診療所での救護活動参加が可能な医師は全体の 81% (福生 B84%、青梅 B75%、あきる野 B83%)。西多摩地区内に居住する医師は全体の 56% (福生 B42%、青梅 B68%、あきる野 B56%)。その他通勤距離、通勤手段、所要時間、最寄りの救急指定病院、公立学校などについてアンケート調査を行った。

(2) 東京都からの報告

福祉保健局医療政策部救急災害医療課災害医療調整担当藤原係長よりトリアージ研修の開催などについて説明。

福祉保健局健康安全全部業務課業務係谷崎次席より災害時の薬局業務運営の手引きなどについて説明。

(3) 東京都西多摩保健所からの報告

「高齢者施設、病院災害時の対応に関する調査」について木村所長より報告あり。

(4) その他

大田区保健所保健衛生課地域医療連携担当の濱田係長より「医薬品のストックと図上訓練の効果」について報告された。

(地域医療部 江本 浩)

小・中学校における結核検診について



西多摩地区市町村結核対策委員会講演会が平成 26 年 3 月 25 日・26 日の両日同じ内容で、小・中学校の学校医及び学校関係者を対象に行われました。

講師に公益社団法人結核予防会結核研究所副所長「加藤誠也」先生をお迎えし「日本の結核の現状、学校における結核の現状と対策」を演題としてご講演頂きました。

内容：我国では、平成 15 年 4 月の学校保健法施行規則の改正により、小・中学校の 1 年生に対して一律に実施してきたツベルクリン反応検査が廃止され、結核の早期発見、早期治療の機会を確保する為に全学年に対し問診を行っています。公立学校における結核検診において、小・中学生の結核患者発見数は、全国で約 3 名程度です。それ故に西多摩地区では、健康診断の効率化と精密検査が必要かどうかを判定する為、平成 26 年度までは 8 市町村すべての公立小・中学校の問診結果を一堂（西多摩保健所）に集めて各関係団体の委員で検討し決定を行うこととしています。ただし、平成 27 年度からは精密検査が必要かどうかの判定を担当学校医の判断のみで行なうこととなる予定です。

次に問診について説明します。結核検診時の問診 6 項目は従来通りです。

(1) 本人の結核罹患歴 (2) 本人の予防接種歴 (3) 家族などの結核罹患歴 (4) 高まん延国での居住歴 (5) 自覚症状 (6) BCG 接種歴 です。

特に重要なのは、「家族などの結核罹患歴」と「高まん延国での居住歴」の 2 項目です。

(1) (2) (3) の問診項目について「あり」と回答の児童生徒については、保健所が実施している接触者検診を受けているか、受けるように言われているかどうか追加で確認を行い、保健所との連携がとれていない場合、速やかに保健所に相談するように指導を行います。

(4) の高まん延国での居住歴は、6 カ月以上の高まん延国での居住歴のある児童生徒等は、入学時または転入時の 1 回精密検査の対象とします。

(5) の自覚症状は、2 週間以上長引く咳や痰の症状があつて、その原因として結核が否定できない場合には速やかに医療機関を受診する必要があります。どうしても医療機関を受診できない場合には、精密検査の対象となる場合があります。

(6) の BCG 接種歴は、平成 24 年以降に就学する児童は BCG の直接接種が導入された後に出生している者である為、未接種児であっても精密検査の対象とする必要はありません。しかしながら、校内で感染性の患者が発生時には迅速な対応が必要となる場合がありますので、事前に情報を知る意義はあります。

以上の問診の条件を十分に考慮し、各担当学校医の先生方は判断をよろしくお願い致します。

(文責 学校医担当理事 宮城 真理)

広報だより



月のオーナー

羽村市 ワタナベ整形外科 渡邊 哲哉

人類にとって月はとても神秘的である。古代から月まつわる逸話も数多くあり、月が人類に与える影響は絶大である。現代においても、月齢が、人間の生理的、精神的な事象（例えば出産や、自殺、殺人、交通事故の起こりやすさ等）に影響を及ぼしているという説が語られることさえあり、あんなに遠いのに月の重力が潮の満ち引きに影響を及ぼしている。竹取物語から村上春樹のIQ84においても月が色々な形で文学にも世界を作っており最も身近な宇宙と言えるのではないのでしょうか。そして身近な宇宙といえる事のもう一つは現実に月の土地が所有できるという事です。にわかには信じがたい事ですが本当なのです。実は私、月に土地を持っています。1エーカー程（サッカーコートほどの大きさ）の土地らしいです。でも自分で買ったわけではなくて4年前の誕生日にプレゼントされました。A3程の大きさの3枚の証書に月の土地権利書/月の憲法/月の地図がセットになっており自分の所有しているエリア、明確な所在地、所有者の名前が印字されており、地図には赤い点で所有地の位置が記されています。更にはカードもあり土地の所有権を財布に忍ばせておく事が出来ます。

その会社のホームページによると「月の土地を販売しているのは、アメリカ人のデニス・ホープ氏。（現アメリカルナエンバシー社CEO）。同氏は「月は誰のものか?」という疑問を持ち、法律を徹底的に調べました。すると、世界に宇宙に関する法律は1967年に発効した宇宙条約しかないことがわかりま

した。この宇宙条約では、国家が所有することを禁止しているが、個人が所有してはならないということは言及されていなかったのです。この盲点を突いて合法的に月を販売しようと考えた同氏は、1980年にサンフランシスコの行政機関に出頭し所有権の申し立てを行ったところ、正式にこの申し立ては受理されました。これを受けて同氏は、念のため月の権利宣言書を作成、国連、アメリカ合衆国政府、旧ソビエト連邦にこれを提出。この宣言書に対しての異議申し立て等が無かった為、LunarEmbassy, LLC（ルナ・エンバシー社：ネバダ州）を設立、月の土地を販売し、権利書を発行するという「地球圏外の不動産産業」を開始しました。」とあります。とってもインチキくさくて非現実的な不動産所有ではありますが、3千円から購入する事が出来ます。でも月のオーナーになったその日から満月をみればその場で立ち止まり、暫し自分の土地があるあたりを眺めながら思わずそこに家を建てる妄想にふけてしまいます。今度、誰かさんへのプレゼントに如何ですか？



連載企画



サーファーズイヤー

あきる野市 まつもと耳鼻咽喉科 松本 学

海から遠く離れたこんな田舎でも、耳の中の水が抜けない、つまっている感じがするといつて受診するサーファーズイヤーの患者が年に数名来院する。プロではなくて趣味でサーフィンをやっている人たちである。休みがあると日本国内だけでなく海外へも遠征するらしい。本人達は病気のこともわかっているのだが、悪化させないように耳栓をしると言ってもバランスが取れないといつて嫌がる。

職業的に潜水する潜水夫や海女などの外耳道に骨性の狭窄がしばしばみられることは古くから知られていた。その本態は、慢性的な外耳道への冷水刺激による反応性の骨部外耳道の外骨腫とされる。特にサーファーに好発することからサーファーズイヤーと命名された。外骨腫というより言葉の響きも良く、何となく格好がいいので一般にもこの病名が広まったのであろう。

サーフィンは海水温度の低い冬季にも行うこと、また波が高く外耳道に頻回に海水が入り込むことから、水泳などに比べて高頻度にかつ高度の外耳道外骨腫が発生しやすいとされる。外耳道狭窄はサーフィンを始めて4年目頃から認められ、サーフィンを続けていると徐々に進行していくという。梅田らがサーファーを対象に行った検診では、プロサーファー

の80%、アマチュアサーファーでも約50%に外耳道狭窄が認められたとしている。

レスリング選手や柔道家は血腫で変形した耳介は練習を積んだ勲章のようなものだが、それと同じくサーファーズイヤーはサーファーにとっての勲章と考えられているようだ。

しかし、長年サーフィンをやっていたからといえば格好いいが、笑ってしまうようなちょっと間抜けな原因もある。学会の雑誌などで時々目にするのがサウナ習慣病の外骨腫である。そのほとんどすべての症例が数10年間にわたり週2～3日から毎日サウナに通い、サウナで温まった後は頭から冷水をかぶりさらに水風呂に頭から浸かるのを習慣にしていたという。サーファーや職業的に潜水する人に比べれば冷水刺激に対する暴露時間ははるかに短い、極端な高温・冷水刺激の反復が外骨腫形成の原因だろうと考察されている。私はサウナ愛好家ではないので、それが正式なサウナの入り方なのかは知らない。話だけ聞くと、趣味、息抜きというよりも拷問に近い感じがするが。

サウナ愛好家にとってサーファーズイヤーの発生にまで至るとは、サウナ道を究めた結果の勲章ということになるのだろうか。

診療報酬点数改定に伴う講習会

保険部 安部 学

4月3・4日、2日にわたり第1部：病院、第2部：診療所（同日とも同じ内容）として、講習会が行われました。講師は、東邦薬品(株)医療情報室 次長 佐藤寿一様をお願いいたしました。出席者数は、同日合わせ、第1部64名、第2部165名と、多数の方に参加していただきました。

講習内容は、社会保障改革の方向性、平成26年度診療報酬改革の基本方針に始まり、診療報酬点数改定につき詳細にお話しいただきました。

参加された皆様お疲れ様でした。



学術部 Information



平成 26 年 2 月 18 日 公立阿伎留医療センターにて、西多摩消化器疾患カンファレンスがありました。特別講演は、「炎症を考慮した消化器癌治療のすすめ」というテーマで、埼玉医科大学国際医療センター 消化器腫瘍科教授 柴田昌彦先生にご講演いただきました。

平成 26 年 3 月 6 日 西多摩医師会館にて、西多摩医師会学術講演会がありました。「革新する糖尿病治療－ SGLT II 阻害薬への期待－」というテーマで、ほたるのセントラル内科院長 内田大学先生にご講演いただきました。

『炎症を標的とした免疫治療のすすめ』

埼玉医科大学国際医療センター 消化器腫瘍科 柴田 昌彦

癌の進展に炎症が大きく関与するといわれている。20 年以上前に肝転移を有する直腸悪性黒色腫患者で免疫療法を行って 5 年生存を得た。しかし動注皮下ポートの感染によって急激に腫瘍が進展して死亡に至った症例を経験した。癌患者でおきる免疫抑制には Mossmann らが提唱した Th1/Th2 セオリーの他に消化器癌などでも増加する可溶性 IL-2 受容体やその他のサイトカイン阻害物質なども大きく関与している。そのメカニズムがどのように発生するかが重要であるが、最近の研究では全身性炎症が関与し、ここに骨髄由来免疫抑制細胞 MDSC や、血管新生因子としても重要な Vascular Endothelial Growth Factor (VEGF), 自己免疫性疾患や炎症性腸疾患の発現に関わるとされる IL-17 などが重要な役割を担っているようである。このような意味合いから、炎症と癌の発生に世界で初めて著した Karl Virchow にちなんで「Back to Virchow」という流れが注目されている。炎症をターゲットにした治療としては Cox-II 阻害薬、NF- κ B 阻害薬、抗 VEGF 薬などのほかに EPA, DHA などの栄養から炎症を制御しようとする試みまでが含まれて良いのではと考えられる。炎症に関わるサイトカインの産生は癌細胞や間質細胞の自発的産生のみならず、化学療法や放射線治療によっても産生が起り、がんの進展や癌悪液質の誘導、精神的な影響や化学療法の効果などにも関わると考えられる。いまいちど、癌の治療における炎症の調節の意味について考えてみてはどうだろう。

『革新する糖尿病治療－ SGLT II 阻害薬への期待－』

ほたるのセントラル内科院長 内田 大学

2013 年に日本糖尿病学会より熊本宣言が発表され、糖尿病の血糖コントロールの目標が改定された。それによると、血糖コントロール目標は患者ごとに個別に定めるべきであり、低血糖なく良質な血糖コントロールを達成することが求められている。そのためには薬剤選択が重要であ

ると思われる。

日本人の糖尿病はインスリン分泌不全が主体であり、欧米人に比べて著しい肥満は少なく、小太りの段階で糖尿病を発症する。しかし、近年の生活習慣の欧米化・運動不足によりメタボ型のインスリン抵抗性が強い症例も増加してきている。更に糖尿病では、過剰なグルカゴン分泌による肝臓からの糖産生増加など複数の病態が関与している。実臨床では、インスリン分泌不全とインスリン抵抗性の病態を判断し、それに合った治療薬を選択することが大切である。

現在わが国では、新しい DPP-4 阻害薬も含めて 6 種類の経口糖尿病治療薬が使用できる環境にある。しかし、2012 年の JDDM の報告では 45.1% の 2 型糖尿病症例で HbA1c が 7% 以上であり、糖尿病の血糖コントロールは十分とは言えない状況である。この理由として、従来の経口糖尿病薬の 3 つの課題、すなわち、①二次無効、②体重増加、③低血糖の存在が考えられる。これらの課題を克服するために、近年開発された SGLT2 阻害薬に期待が集まっている。

SGLT2 阻害薬は腎臓でのグルコース再吸収を担う SGLT2 を選択的に阻害することにより、血液中の過剰な糖を尿中に排出する。健常者においても SGLT2 阻害薬の投与により約 50g のブドウ糖が尿中に排泄されるが、2 型糖尿病患者では、代償性に近位尿細管における SGLT2 発現レベル及びグルコース取り込みが有意に亢進しているため、SGLT2 阻害薬により約 100g のブドウ糖が排泄される。1835 年にリンゴの樹皮から発見されたフロリジンが SGLT2 阻害薬の基本骨格である。イプラグリフロジンは、フロリジンからの構造変化により SGLT2 選択性、経口吸収性改善、GLUT 阻害作用なし、および長時間作用という特徴を獲得した薬剤である。イプラグリフロジンは、日本人の 2 型糖尿病患者対象に単独投与する治験において、プラセボとの比較で HbA1c を -1.24% 有意に低下させた。また、糖質が尿中に排泄されることで脂肪分解が亢進し、体重を -1.47kg 有意に減少させた。イプラグリフロジンは血糖日内変動においては食前血糖・食後血糖を共に低下させる。そして、内因性インスリン分泌を抑制しつつ血糖を改善する効果を持ち、膵β細胞への保護効果が期待できる。従来の糖尿病治療薬と作用機序が異なるため、既存の 6 種類の経口糖尿病薬のいずれとの併用においても約 -0.8% の更なる HbA1c 低下効果が認められる。ただし、その効果の大きさは腎機能に依存し、中等度腎機能低下者での HbA1c 改善効果は約 -0.4% と腎機能が良い症例と比べて小さくなる。脂質に関する効果としては中性脂肪の低下作用が認められている。

主な SGLT2 阻害薬の副作用は、体液量減少に伴う頻尿・口渇・脱水、尿糖増加に伴う尿路感染症・性器感染症、糖質の栄養素としての利用低下に伴う体重減少・ケトン体の増加などである。SGLT2 阻害薬は、インスリン作用に依存することなく血糖値を低下させるため、単独投与時に低血糖症を引き起こす可能性は低い。しかし、スルホニルウレア剤、速効型インスリン分泌促進剤又はインスリン製剤と併用する場合には、これらの薬剤による低血糖症のリスクが増加するおそれがある。これらの点に留意しつつ適正使用することが大切である。

近く市販開始されるイプラグリフロジンにより、わが国の糖尿病治療が更に革新し、より多くの症例で良質な血糖コントロールが達成されることを期待したい。

第6回西多摩認知症医療連携委員会報告



平成26年2月13日(木)に西多摩医師会館に於いて第6回認知症医療連携委員会を開催しましたので、ご報告致します。

出席者：高橋真冬 植田宏樹 村森史彦 小山秀樹 小林康弘(敬称略) 江本浩

報告事項

1. 本委員会にて企画立案した認知症講演会開催の報告

平成25年10月30日に西多摩医師会学術講演会を開催した。首都大学東京教授の繁田雅弘先生に特別講演として『アルツハイマー病：日常診療のヒント』というテーマで講演して頂いた。講演会のオープニングに於いて本会で作成した認知症連携シートについて紹介した。

2. 市民健康講座開催の報告

平成25年10月12日に青梅市立総合病院講堂に於いて西多摩医師会学術部主催の市民健康講座を開催した。小林委員の司会により本会から高橋委員、植田委員に講演して頂いた。

3. 西多摩医療圏認知症疾患医療・介護連携協議会(平成26年2月27日)開催予定について(村森委員より説明)。

承認事項

1. 認知症専門医在籍施設リスト作成について

物忘れ相談医リスト更新に伴う専門医在籍リストを作成するために、FAXによるアンケート再調査を行った。以下の如く21病院から回答を頂いた(別表参照)。前回の専門医在籍リストにも掲載されている、3公立病院、秋川病院、青梅成木台病院、東京海道病院の6施設に加え、あきる台病院、桜井病院、鈴木慈光病院、高沢病院、東京青梅病院、日の出ヶ丘病院、武蔵野台病院を加えた、13施設が専門医在籍リストへの掲載を希望された。尚、前回のリストに掲載されている高木病院は今回のリストへの掲載を希望されなかった。

2. 本会は今回の第6回閉会を以って一旦閉会とするが、必要が生じた際には臨時で開催する。

(地域医療部 江本 浩)

認知症診療に関するアンケート

Q1 認知症の専門医が勤務されていますか？

内 科	精神科	脳神経外科	?	いない
0	7	0	2	12

Q2 認知症の治療について

- A 外来治療のみで原則的に入院は不可
- B 精神科として入院可能
- C 他院の精神科と連携して対応可能
- D 療養型病床への入院可能
- E その他

A	B	C	D	E
3	7	3	7	4

Q3 身体合併症の治療は可能ですか？

- A 原則可能
- B 内科疾患は可能
- C 外科疾患は可能
- D 認知症が軽症または安定している例は可能
- E 不可能

A	B	C	D	E
7	11	0	6	3

Q4 貴施設名を認知症専門医在籍リストに掲載させて頂いても良いですか？

はい	いいえ
10	11

第 12 回西多摩医師会臨床報告会について

H 26 年 3 月 3 日（月）公立福生病院多目的ホールにて開催いたしました。

本年度の内容は公立福生病院外科、高村内科クリニック、青梅市立総合病院救急科、公立阿伎留医療センター内科・呼吸器科より発表がありました。

今回は、雪の為急な開催日の変更にもかかわらず 30 人もの先生方に御来場いただき活発な意見交換がされました。

今回の御報告は各先生方より頂きました抄録を掲載させていただきます。

（学術部担当 小林 康弘）

1. 安定期の慢性閉塞性肺疾患（COPD）における 緩徐に進行する呼吸困難に対するアプローチ

公立阿伎留医療センター 内科・呼吸器科

後藤慎一、井口森智、西成田進、荒川泰行

症例は 83 歳の安定期の COPD で在宅酸素療法（HOT）が挿入され安定した経過であった。施設に入所中、診断後 6 年から誘因なく呼吸困難が増悪し精査のため当院へ紹介となった。高度の閉塞性換気障害（FEV1.0 = 0.34 L、FEV1.0% = 36.2%）を認めたが肺炎、心不全などの急性増悪の病態はなかった。精査の結果、下肢筋力を中心とした筋の deconditioning が呼吸困難に関与していると考えられた。歩行訓練と呼吸リハビリテーションを開始したところ徐々に改善した。COPD の運動時息切れは、一定以上の負荷（リハビリ、普段の運動や歩行など）を維持することが高齢者であっても有用と思われた。

2. 在住外国人糖尿病患者の療養指導 ＝ インスリン治療を拒否した一例 ＝

高村内科クリニック

小池日登美² 小島花子² 倉増恵梨² 福田 麗²

村尾 絢² 飯塚理恵³

名嘉真香小里⁴ 植木彬夫¹ 高村 宏¹

医師¹ 健康運動指導士² 管理栄養士³ 看護師⁴

福生市は総人口に占める外国人の割合が大きく、平成 22 年 4 月 1 日現在で、2,389 人の外国人が登録している。地域別にみるとアジア 1,748 人、中南米 387 人、北米 144 人、アフリカ 75 人、ヨーロッパ 29 人、オセアニア 4 人となっており、その国籍は 57 か国におよんでいる。

近年の在住外国人の増加に伴い、医療機関を受診する外国人患者の数は増加の一途にあるが、医療現場では、ことばの問題に加えて、文化/宗教や医療制度の違いによってコミュニケーションがうまく取れないことで、戸惑う医療関係者も少なくない。

当院でも、在住外国人糖尿病患者が 40 名ちかく通院しており、ほとんどの患者は、通訳としての家族や友人、ボランティアと共に受診しているが、診療に十分な意思疎通ができていないか懸

念を抱く場面がしばしばでてくるのが現状である。

今回、受診歴6年、インスリン治療を拒否したコントロール不良の2型糖尿病、ペルー人女性に対し、療養指導を行ったので報告する。

3. 救急外来での診断に時間を要した脊髄硬膜外血腫の2例

青梅市立総合病院

救命救急センター 川上 正人

<症例1> 80歳女性

入浴後着衣中に胸背部痛が出現し、症状が改善しないため救急要請。来院時、後頸部から右上肢にかけての疼痛を訴えるも、神経学的異常は認めなかった。血液検査や頭部CT・胸部造影CTに異常を認めなかった。造影剤投与後の嘔気嘔吐のため、救急外来で経過観察していると、上下肢の運動障害、知覚障害が進行したため、頸髄MRIを施行し頸髄硬膜外血腫を認めた。救急外来滞在時間は約11時間であった。

<症例2> 67歳女性

起床後に腰痛が出現し下肢の動きづらさを感じたため、救急要請。来院時、左腰部に叩打痛あり、左下肢完全麻痺を認めた。血液検査、頭部CT、頭部MRIには異常を認めなかった。胸腰椎CTにて硬膜外血腫を疑い、MRIにて確定診断した。救急外来滞在時間は約6時間であった。<考察>特発性脊髄硬膜外血腫は稀な疾患なため、それを疑わない限り診断までに時間を要していた。今回の2症例からは、それを疑う所見として、患部の疼痛の有無とそれに続く進行性の神経障害が重要で、正確な神経学的所見を取ることが大切と考えた。

4. 当院における腹腔鏡下虫垂切除術の導入とその実際について

公立福生病院外科

中野 容、星川竜彦、大山隆史、平崎重雄、

仲丸 誠、浅井聖子、古川秋生、五月女恵一、

諸角強英

近年、腹腔鏡下手術の普及とともに腹腔鏡下虫垂切除術を導入する施設が増加し、年々手術件数も増えてきている。腹腔鏡下虫垂切除術の利点として、①傷が小さく整容性に優れている、②創感染症が少ない、③術後痛みが軽く、術後の回復や退院が早い、④癒着が少なく、腸閉塞になりにくい、⑤腹腔内を広く観察でき、十分な洗浄、ドレナージが可能である、などが挙げられる。

欠点としては、①全身麻酔を必要とすることや②腹腔鏡下手術に習熟した知識とテクニックが要求されることなどであるが、特に肥満症例や高度炎症例（壊疽性、穿孔性、膿瘍形成）に対しては、開腹手術と比較して大きなメリットがあると考えられる。

当院では昨年7月から腹腔鏡下虫垂切除術を導入し、現在までに29例に施行しているが、単孔式だけでなく、細径2mm鉗子を使用した術式も施行し、良好な結果を得ている。

導入後の経過や術式の選択基準などを含めて、ビデオを供覧し解説する。

解答と解説 公立福生病院 小児科医長 武田 良淳

【解答】 セレスタミン内服による医原性クッシング症候群

【解説】

・セレスタミンについて

セレスタミン配合錠は1錠中に betamethasone 0.25mg と抗ヒスタミン薬の d-chlorpheniramine maleate 2mg を含有する。抗アレルギー剤として多くの診療科で使用されているが、ステロイド含有剤としての認識が薄く漫然と使用されている例も散見される。含有される betamethasone は高力価の合成ステロイドであり、hydrocortisone の約 80 倍、prednisolone の 20 倍の副腎抑制作用を有する。生物学的半減期も hydrocortisone の 8-12 時間に対して betamethasone・dexamethasone は 36-54 時間と長く、より成長障害や副腎機能抑制を生じやすい。

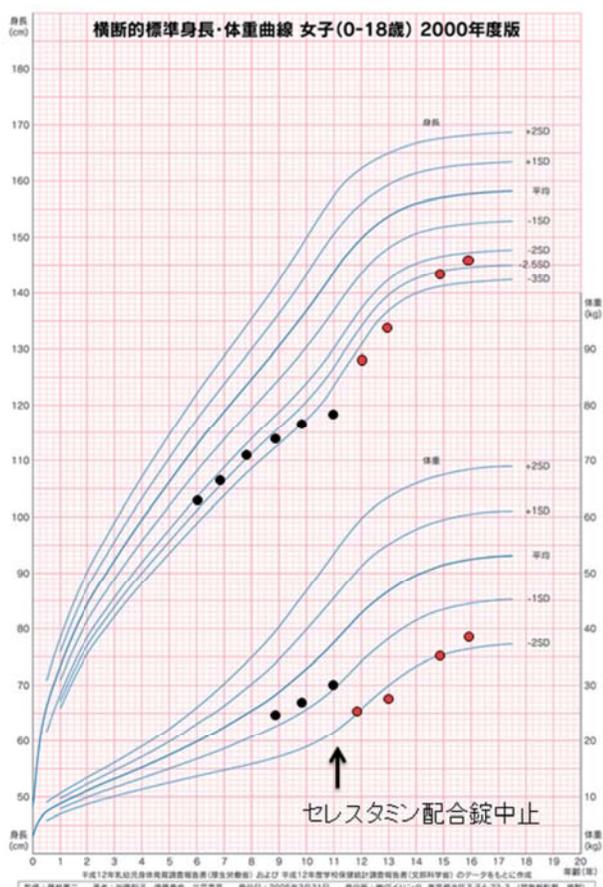
・医原性クッシング症候群について

ステロイドの長期間投与により視床下部からの CRH 分泌、下垂体からの ACTH 分泌が阻害され、副腎の萎縮を来し副腎からの cortisol 分泌が抑制される。成人で prednisolone 15mg/日以上のステロイドを3週間以上投与した場合に副腎機能が抑制される。本症例では betamethasone 0.25mg (prednisolone 5mg 相当)

を7年間と長期に内服していたことで著しい成長障害と副腎機能抑制を生じたものと考えられる。

また、医原性クッシング症候群の治療方針はステロイドの減量中止と副腎抑制の回復までの生理的 cortisol 分泌の補充療法が行われる。本症例では診断後にセレスタミン配合錠の中止と cortisol 補充として hydrocortisone の基礎分泌量および発熱時などのストレス量補充を行った。セレスタミン中止後より身長増加を認めた(図2 参照)が、副腎機能の完全な回復までは中止から5年の観察が必要であった。

小児において、肥満・成長率の低下を認める場合はステロイド投与の有無を確認する必要がある。本症例のように、抗アレルギー薬としてステロイド配合剤が漫然と使用されている場合があるため注意が必要である。



【図2】

同好会短信



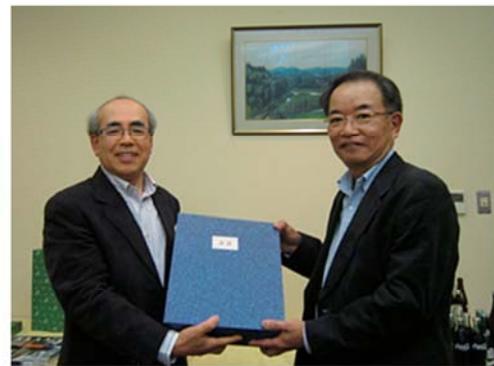
ゴルフ部だより

羽村市 ワタナベ整形外科 渡邊 哲哉

去る3月30日、東京バーディクラブにて恒例の医師会コンペが開催されました。通常であればこの時期は桜が満開で温かい絶好のゴルフ日和と云うはずでしたが、この日は朝から少々雲行きが怪しい状況で時に冷たい風が舞うコンディションの中での開催となりました。そんな中でホームコースであるがゆえに隠しホールを操作したのではないかとの疑惑も浮上しましたが、そのようなことは無く堂々と優勝を勝ち取ったのは青梅の後藤会員でした。そして準優勝には2つともドラコンを取り還暦を迎えても未だ満振りに衰えを知らない福生の田村会員でした。ベスグロは実力通りの青梅の酒井会員でした。今回初参加の松原弘明会員はグロスで6位と今後上位を争う実力がうかがわれました。もう一人の初参加の成井研治会員は今回B.M.に甘んじましたが、芯を食ったドライバーはまさにミサイルの如くの弾道でフェアウェイを切り裂くパワーを存分に発揮されていました。今後も

初参加の会員が増えてくれることを一同願っております。

また、長年幹事を務めていただきました福生市の田村啓彦先生、田坂哲哉先生から引き継ぎまして今回から青梅市の三島淳二先生と私が新しく幹事を引き継いで行くことになりました。これを契機として今回から運営方式を少し改めさせていただきました。参加資格としては原則として、西多摩医師会員である事としました。但し、医師会事務長の笛田さんには運営上、連絡等の業務を行っていただく上で今後も参加して頂くことになりました。競技方法は暫く新ペリア方式で行い、結果の公表は成績上位者のみとすること、組み合わせは出来るだけ他の地区との先生とのペアリングにする。という事で今後の運営についても同様に行っていくことで御参加された会員より賛同を頂きました。次回は10月5日(日曜日)に同じく東京バーディクラブでの開催を予定しています。奮って御参加下さい。



順位	氏名	所属	アウト	イン	グロス	ハンディ	ネット
優勝	後藤 晋	青梅	45	49	94	21.6	72.4
準優勝	田村 啓彦	福生	42	41	83	9.6	73.4
3位	渡邊 哲哉	羽村	41	45	86	12.0	74.0
4位	酒井 淳	青梅	41	39	80	4.8	75.2
5位	馬詰良比古	福生	46	45	91	15.6	75.4

ドラコン：田村啓彦×2

ニアピン：青山彰、酒井淳、三島淳二、渡邊哲哉

スペシャルニアピン：田村啓彦、笛田美光

◇学術講演会予定

26.4.23

開催日	開始～終了 時間 開催時間	会 場	単 位 数	カリキュラム コード	集会名称・演題	講師（役職・氏名）
5.15 (木)	19:30 ～ 20:45	西多摩 医師会館	1	9,15	学術講演会 「SGLT2 阻害薬の期待～当院で の使用経験を踏まえて～」	柳田医院 院長 柳田 和弘 先生
6.26 (木)	19:30 ～ 21:40	公立 福生病院			公立福生病院症例検討会 未定	
6.30 (月)	19:40 ～ 21:10	西多摩 医師会館	1	13,82	学術講演会 【症例発表Ⅰ】 【症例発表Ⅱ】 【特別講演】 『高齢者におけるトラゼンタの 有用性について』（仮）	柳田医院 院長 柳田 和弘 先生 高村内科クリニック 東京医科大学 第三内科 名誉教授 植木 彬夫 先生

● 理事会報告

★ Information ●

2月定例理事会

平成26年2月12日(水)

西多摩医師会館

〔出席者：横田・鹿児島・野本・江本・近藤・小林・西成田・奥村・大堀〕

【1】報告事項

(1) 各部報告

- ・総務部 東京都が実施する「糖尿病地域連携の登録医療機関」制度、「糖尿病地域連携の登録医療機関」への登録届を会員宛に送付した
- ・地域医療部 2月13日、第6回西多摩認知症連携委員会（最終回）を開催する
- ・学術部 2月4日に予定していた臨床報告会を雪のため中止し、延期した

(2) 地区会報告（各地区理事）

青梅市

福生市

羽村市 2月13日、幹事会を開催予定

あきる野市

瑞穂町

日の出町

(3) その他報告

特になし

【2】 報告承認事項

- (1) 入・退会会員、会員異動について — 承認 —
資料により、入退会会員、会員の異動届が紹介され、入会会員が承認された
- (2) 平成 26 年度檜原村小・中学校耳鼻咽喉科及び眼科検診の承諾について — 承認 —
資料により、標記検診の依頼を希望する医師について紹介され、承認された

【3】 協議事項

- (1) 平成 26 年度瑞穂町学校医について（依頼） — 可決承認 —
資料にて依頼内容が紹介され、委嘱希望の医師を推薦することが可決承認された
- (2) 平成 26 年度瑞穂町学校眼科医について（依頼） — 可決承認 —
資料にて依頼内容が紹介され、委嘱希望の医師を推薦することが可決承認された
- (3) 西多摩、医療・福祉地域連携マニュアル VOL.2 判断・対処集の複製の許諾について（依頼） — 可決承認 —
資料により坂戸鶴ヶ島医師会からの依頼事項について紹介された
前年度に板橋区医師会からの依頼があり承諾した経緯があり、その情報に基づき今回依頼となったことから、板橋区医師会の時と同様の複製を許諾することが提案され、可決承認された

2月定例理事会

平成26年2月25日(火)

西多摩医師会館

〔出席者：横田・鹿児島・野本・江本・近藤・小林・西成田・朱膳寺・安部・奥村・大堀・中野〕

【1】 報告事項**(1) 都医地区医師会長連絡協議会**

1. 都医からの伝達事項

1. 「糖尿病地域連携の登録医療機関」Q&A について

2. 平成 26 年度における風しん・先天性風しん症候群対策関連事業について

平成 26 年度、厚生労働省が、妊娠希望女性等に対する抗体検査を実施する都道府県への国庫補助の創設を打ち出したことを踏まえ、東京都は、抗体検査と予防接種を組み合わせた形で対策を進めることとした。平成 26 年 2 月 7 日からこの事業は、市町村への補助または委託により実施することも可能となった。接種希望者には、先に抗体検査を行い、低抗体価であった方に予防接種を行う。

3. レセプト電子化猶予中の保険医療機関への対応について

レセプト電子化が猶予されている医療機関は、猶予終了日までにオンラインまたは磁気媒体による請求方法に切り替えられない場合、診療報酬の請求ができなくなる。しかし、新たに猶予届を提出することにより、猶予期間を最長平成27年3月31日までとすることができる。

4. 都民公開講座告知用チラシ・ポスター配布について
 5. 平成24年度東京都産業医の活動実績について
 6. 産業保健活動総合支援事業の運営について
 7. 在宅難病患者訪問診療事業実施状況（平成25年度第3四半期）について
 8. 平成25年度東京都医師会医学研究賞・グループ研究賞受賞記念講演会について
 9. 生産性向上設備投資促進税制について
「生産性向上設備投資促進税制」の創設に伴い、医療用機器は当該新制度と既存の「医療用機器に係る特別償却制度」どちらかの選択適用の可能性がある。
 10. 持分の定めのない医療法人への移行に係る質疑応答集（Q&A）の周知について
 11. 「医療関係者のための配偶者暴力被害者対応マニュアル」に係る周知について
 12. 日医認証局に関する担当理事連絡会の開催について
2. 地区医師会からの報告
1. 中央ブロック（当番：千代田区医師会）
 2. 城東ブロック（当番：墨田区医師会）
 3. 城西ブロック（当番：世田谷区医師会）
①学術講演集・中野医療フォーラムについて（中野区医師会）
 4. 城南ブロック（当番：品川区医師会）
 5. 城北ブロック（当番：北区医師会）
 6. 多摩ブロック（当番：北多摩医師会）
①水銀回収に際しての行政への要望について（三鷹市医師会）
 7. 大学ブロック（当番：昭和大学医師会）
①東京都大学医師会連絡協議会報告について（昭和大学医師会）
3. 出席者による意見交換
4. その他

1. 東京都医師会館仮事務所への移転について

(2) 各部報告

学術部 雪のため延期になった「臨床報告会」を3月3日に開催する件について

地域医療部 2月13日西多摩認知症連携委員会を開催した件について

西多摩地域糖尿病医療連携検討会 「糖尿病診療ポイント集」及びそのダイジェスト版を作成、会員に配布した件について

(3) 地区会報告（各地区理事）

青梅市

福生市

羽村市

あきる野市 2月17日例会開催

瑞穂町

日の出町

(4) その他報告

・東京都医師会第6回救急委員会（2月17日 小山英樹委員）
議題

1. 会長諮問事項について

- ・災害時の医療に関する研修会の開催について
- ・休日・全夜間診療事業の見直しに係る検証について
- ・高齢者救急の医療体制について

2. 東京消防庁救急相談センターについて

3. その他

- ・東京都災害拠点病院の指定について
- ・東京都災害医療向上訓練への協力について
- ・平成25年度東京都医師会医学研究賞・グループ研究賞受賞記念講演会について
- ・東京消防庁からのお願い（転院搬送時における救急車の適正利用）

【2】報告承認事項

(1) 入・退会会員、会員異動について

標記について、前回報告以後の期間に該当がないと報告された。

【3】協議事項

(1) 市立保育園園医の推薦について（依頼）

羽村市からの依頼に対し、羽村地区長より推薦候補者の申し出 — 可決承認 —
があり、協議の結果、地区の申し出通り柴正美先生を推薦することが可決された。

- (2) 平成 26 年度あきる野市立小・中学校医（内科医・精神科医）の推薦について（依頼）
標記依頼に記載された内科医・精神科医を推薦することについて — 可決承認 —
協議され可決承認された。
- (3) 平成 26 年度事業計画の策定について — 継続 —
平成 25 年度事業計画が参考として配布され、各担当理事が次回理事会までに検討の上、
再度協議することとした。

3月定例理事会

平成26年3月11日(火)

西多摩医師会館

[出席者：横田・鹿兒島・野本・蓼沼・江本・宮城・近藤・小林・西成田・朱膳寺・安部・奥村・
大堀・中野]

【1】報告事項

(1) 各部報告

- ・総務部（糖尿病医療連携検討会） 3月2日に開催した糖尿病セミナーについて
- ・学術部 3月3日に開催した臨床報告会について
3月13日に開催予定のパネルディスカッションについて
- ・学校医部 西多摩保健所より、3月26日・27日に開催予定の「西多摩地区市町村結核対策委員会講演会」に学校医の参加要請があった
- ・地域医療部 3月20日に開催される「西多摩保健医療圏地域災害医療連携会議」について

(2) 地区会報告（各地区理事）

青梅市

福生市

羽村市 3月4日に開催された総会について

あきる野市

瑞穂町

日の出町 2月25日に開催した日の出町医師会について

(3) その他報告

100周年記念誌編集委員長より記念誌作成の進捗状況について

【2】報告承認事項

(1) 入・退会会員、会員異動について

— 承認 —

資料により、準会員の入会申し込みと退会者が紹介され、承認された

【3】協議事項

- (1) 平成 26 年度保育園嘱託医（内科医）の推薦について（依頼） — 可決承認 —
資料にて説明があり、25 年度と同様の先生を推薦することが可決承認された
- (2) 脳神経医外科の医療連携講演について（依頼） — 可決承認 —
多摩総合医療センターより脳神経医外科の医療連携講演の依頼があった。
資料にて依頼内容が説明され、協議の結果
・依頼内容の講演会開催は承認する
・学術講演会として行う
以上で可決承認された。
- (3) 「在宅医療認定講座」について — 可決承認 —
委員長より提出された資料・審議依頼事項について説明があり協議を行った。
表題は、「第 1 回西多摩在宅医療認定講座」から「平成 26 年度西多摩在宅医療認定講座」とする。
審議事項は、西多摩在宅医療認定講座終了時の認定証の発行は可とするが、対象者や内容を考慮することが求められた。その他の審議事項は条件等なし可とした。
- (4) 平成 26 年度事業計画について（継続） — 可決承認 —
前回より継続審議となっていた平成 26 年度事業計画について、追加資料として暫定計画案が示され、説明と検討が行われた。各担当理事からの追加事項等はなく可決承認された。
- (5) 東京都感染症発生動向調査事業に係る定点医療機関の推薦依頼について — 可決承認 —
羽村地区定点医療機関の滝浦先生の辞退のため羽村地区定点医療機関の推薦を奥村理事に一任した。

3月定例理事会**平成26年3月25日(火)****西多摩医師会館**

〔出席者：横田・鹿児島・野本・蓼沼・江本・宮城・近藤・岩尾・小林・西成田・朱膳寺・安部・奥村・大堀・中野〕

【1】報告事項**(1) 都医地区医師会長連絡協議会報告**

1. 都医からの伝達事項

1. 平成 25 年度新型インフルエンザ対策講習会 DVD の送付について
2. 海外渡航中の感染が推定される症例を含めた麻しん患者報告数の増加について

厚生労働省より、本年第1週から第4週までに昨年同時期の報告数(18例)を大幅に上回る46例の麻しん患者の報告があり、海外渡航中の感染が推定される(特にフィリピンでの感染が推定される)患者数が増加していることについての注意喚起があった。麻しんと診断した時は、速やかに最寄りの保健所へ届出を。

3. 都民公開講座資料(テレビCM3年分)配布について
 4. 難病対策の改革について
来年1月を目途に40年ぶりに難病対策の改革を予定
 5. 「平成26年度東京消防庁救急相談センター救急相談医に対する研修会」の開催について
 6. 平成25年度日本医師会生涯教育制度の申告について
2. 地区医師会からの報告
1. 中央ブロック(当番:千代田区医師会)
 - ①合同災害訓練の実施について (千代田区医師会)
 2. 城東ブロック(当番:墨田区医師会)
 3. 城西ブロック(当番:世田谷区医師会)
 - ①東日本大震災復興支援コンサートについて (中野区医師会)
 - ②目黒区医師会区民セミナーについて (目黒区医師会)
 4. 城南ブロック(当番:品川区医師会)
 5. 城北ブロック(当番:北区医師会)
 - ①第1回公益社団法人板橋区医師会若手医師奨励賞について (板橋区医師会)
 6. 多摩ブロック(当番:北多摩医師会)
 - ①第11回武蔵野市地域医療連携フォーラムについて (武蔵野市医師会)
 7. 大学ブロック(当番:昭和大学医師会)
3. 出席者による意見交換
4. その他
1. 第131回日本医師会臨時代議員会における代表質問・個人質問について

行事予定

1. 4月の地区医師会長連絡協議会
日時:平成26年4月18日(金)午後2時
場所:東京都医師会仮事務所(住友商事竹橋ビル13階)

2. 5月の地区医師会長連絡協議会

日時：平成26年5月16日（金）午後2時

場所：東京都医師会仮事務所（住友商事竹橋ビル13階）

(2) 各部報告

学術部 3月13日に開催したパネルディスカッションについて

総務部 3月13日に糖尿病・3月25日に脳卒中の医療連携検討会を開催

地域医療部 3月20日西多摩保健医療圏地域災害医療連携会議を開催

(3) 地区会報告（各地区理事）

青梅市 3月19日 理事会を開催

福生市 3月17日 理事会を開催

5月26日 総会を開催予定

羽村市

あきる野市 3月17日 地区例会を開催

瑞穂町

日の出町

(4) その他報告

・東京都医師会第7回救急委員会（3月17日 小山英樹委員）

1. 会長諮問事項

- ・災害時の医療に関する研修会の開催について
- ・休日・全夜間診療事業の見直しに係る検証について
- ・高齢者救急の医療体制について

2. 平成26年度休日・全夜間診療事業の実施に伴う参画救急医療機関の選定結果について

3. 救急救命士の処置範囲の拡大について

4. 東京消防庁救急相談センターについて

【2】報告承認事項

(1) 入・退会会員、会員異動について

— 承認 —

資料により紹介された準会員の入会が承認された。

【3】協議事項

(1) 平成26年度西多摩地区市町村結核対策委員会委員の推薦について（依頼）

— 可決承認 —

医師会代表として宮城理事を、学校医代表として片平先生を推薦することが提案された。本人の承認を得ることを条件に可決承認された。

(2) 平成26年度収支予算書(案)について

— 条件付き可決承認 —

会館の新築移転等による経費の実績に基づかない予算案であることを前提に、資料(案)の内容が説明された。協議の結果、提示された資料(案)について暫定的に可決承認とする。但し、予算の見直しが必要な場合は、修正の必要性を含め再度協議することとした。

(3) 「平成26年度西多摩在宅医療講座」開講のお知らせ・申込票について — 可決承認 —

お知らせ・申込票が示され、関係機関等への発信について承諾が求められ、可決承認された。

(4) 平成26年度保育園嘱託医の推薦について(依頼)

資料の先生を推薦することで可決承認された。

— 可決承認 —

会 員 通 知

- 会報3、4月号
- 宿日直表(青梅・福生・阿伎留)
- 第12回西多摩医師会臨床報告会(3/3)
- 学術講演会(3/6、3/12、3/18、4/9、4/11)
- 診療報酬点数改定に伴う講習会(4/3、4/4)
- 青梅市立総合病院・西多摩医師会合同内科カンファレンス(3/14)
- 糖尿病診療ポイント集“2014西多摩版”
- 糖尿病診療ポイント集ダイジェスト版
- 西多摩保健所予防接種による事故防止の徹底について
- 告示 都医監事(補欠)日医代議員(補欠) 日医代議員 予備代議員
- 第28回西多摩心臓病研究会演題募集
- 平成26年度東京都医師会主催「日本医師会生涯教育講座」第1期(4月~7月期)の開催について
- 改訂診療報酬点数表参考資料配付について
- 平成26年度西多摩在宅医療講座開講のお知らせ
- 公立阿伎留医療センター医局講演会(4/28)
- 平成25年度日本医師会生涯教育制度終了にあたっての「生涯教育申告書」提出のお願い
- 薬価基準点数早見表
- 医科診療報酬点数表
- 改定診療報酬点数表参考資料・新旧対照表
- 東京都医師会会員名簿
- 西多摩医師会会員名簿
- 第28回西多摩心臓病研究会(4/23)
- 「肝臓」が気になる・・・あなた！肝臓がんにならないために・・・なった時
- 東京都医師会雑誌 平成26年8月号(銷夏随想集)」について(依頼)
- 糖尿病患者さんのための糖尿病教室に参加してみませんか？
- 1年に一度は個別相談を受けましょう
- 西多摩保健所だより
- 食物アレルギー緊急時対応マニュアル
- 目の健康講座
- 東京都地域がん登録事業について
- 医薬品・医療機器等の副作用・感染症・不具合報告のお願い
- 肝炎ウイルス検診を受けましょう
- 「がん」から子供たちの未来を守るために
- ほじょ犬 もっと知ってBook

医師会の動き

平成26年4月22日現在

医療機関数	200	病院	30
		医院・診療所	170
会員数	548	正会員	210
		準会員	338

会議

3月11日	定例理事会
13日	第4回西多摩糖尿病医療連携検討会
25日	第4回西多摩地域脳卒中医療連携検討会
25日	定例理事会
4月4日	在宅難病調整委員会
8日	定例理事会
10日	在宅難病訪問診療（青梅1）
22日	定例理事会
24日	会報編集委員会

講演会・その他

3月2日	糖尿病セミナー
3日	第12回西多摩医師会臨床報告会
1.	「安定期の慢性閉塞性肺疾患（COPD）における緩徐に進行する呼吸困難に対するアプローチ」 公立阿伎留医療センター 内科・呼吸器科 後藤 慎一 先生 他
2.	「在住外国人糖尿病患者の療養指導 = インスリン治療を拒否した一例 =」 高村内科クリニック 小池日登美 先生 他
3.	「救急外来での診断に時間を要した脊髄硬膜外血腫の2例」 青梅市立総合病院 救命救急センター 川上 正人 先生
4.	「当院における腹腔鏡下虫垂切除術の導入とその実際につい

て」

	公立福生病院 外科 中野 容先生 他
5日	青梅市立総合病院・西多摩医師会合同内科カンファレンス
6日	学術講演会 【一般講演】「経口血糖降下剤治療の限界」 演者：青梅市立総合病院 内分泌糖尿病内科 井上 栄生 先生 【特別講演】「革新する糖尿病治療－SGLT II 阻害薬への期待」 演者：はたのセントラル内科 院長 内田 大学 先生
7日	保険整備委員会
12日	学術講演会 【一般演題】「当院におけるNOACの使用経験－有用性と問題点－」 演者：梅郷診療所 院長 江本 浩 先生 【学術講演】「循環器領域において新規抗凝固薬をどう使うか」 演者：日本大学医学部附属板橋病院 副病院長 日本大学医学部 内科学系 循環器内科学分野 主任教授 平山 篤志 先生
13日	西多摩パネルディスカッション2014 『不整脈』～専門医から学ぶ診断と治療のコツ 【不整脈について】専門医の立場から 『心房細動』 青梅市立総合病院 循環器内科 大友 建一郎 先生 『虚血と不整脈』 公立阿伎留医療センター 循環器科 榎田 光夫 先生

- 『ペースメーカー』 公立福生病院 循環器内科 高橋 英治 先生
- 【パネルディスカッション】
1. アンケート結果報告
石畑診療所 小林 康弘 先生
2. パネルディスカッション
司会：石畑診療所 小林 康弘 先生
パネリスト 青梅市立総合病院 循環器内科 大友 建一郎 先生
公立阿伎留医療センター 循環器科 榎田 光夫 先生
公立福生病院 循環器内科 高橋 英治 先生
- 18日 学術講演会
講演Ⅰ 「パーキンソン病の外科的治療」
演者：公立福生病院 脳神経外科部長 小山 英樹 先生
講演Ⅱ 「地域の先生方に役立つパーキンソン病の見つけ方とわかりやすい治療の実践」
演者：国家公務員共済組合連合会 立川病院 内科部長 太田晃一 先生
- 19日 西多摩地域脳卒中医療連携検討会 市民公開講座
講演Ⅰ 「救急車を上手に使いましょう ～ 救急車、必要なのはどんなとき？」
東京消防庁青梅消防署 救急救命士 横尾 歩 氏
講演Ⅱ 「“救急車の受け入れ” から “リハビリ転院の勧め” まで」
青梅市立総合病院神経内科 部長 高橋 眞冬 氏
講演Ⅲ 「脳卒中後遺症に対するリハビリテーション」
公立阿伎留医療センターリハビリテーション科 部長 岡田 眞明 氏
- 20日 法律相談
- 27日 糖尿病教室
- 29日 糖尿病教室 in 青梅 奥多摩
- 4月3日 診療報酬点数改定に伴う講習会
- 4日
- 9日 保険整備委員会
- 9日 学術講演会
【講演】① 「当院におけるアピキサバンの処方経験」
演者：南多摩病院 救急医療科・循環器科 部長 関 裕 先生
【講演】② 「心房細動患者の脳塞栓症予防
－ 高齢化社会における抗凝固療法－
演者：埼玉医科大学国際医療センター 神経内科 教授 棚橋 紀夫 先生
- 11日 学術講演会
【一般講演】 「糖尿病治療における新しい食品交換表について」
演者：緑風荘病院健康推進部・栄養室主任 管理栄養士 西村 一弘 先生
【特別講演】 「経口糖尿病薬 update」
演者：杏林大学 大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・代謝内科 准教授 犬飼 浩一 先生
- 17日 法律相談
- 24日 糖尿病教室
- 役員出張**
- 3月14日 東京都医師会地区医師会長連絡協議会
- 4月18日 東京都医師会地区医師会長連絡協議会

【入会会員】(正会員)

氏名 井上 仁
勤務先 奥多摩病院
出身校大学 自治医科大学 昭和62年3月卒

【入会会員】(準会員)

氏名 福井 貴弘
勤務先 (医社) 三清会 小作クリニック
出身校大学 日本大学 平成9年3月卒

氏名 神田 祥子
勤務先 青梅市立総合病院
出身校大学 大分医科大学 平成15年3月卒

氏名 宮脇 素子
勤務先 (医社) 仁成会 高木病院
出身校大学 東京女子医科大学
平成13年3月卒

氏名 吉澤 信輔
勤務先 公立阿伎留医療センター
出身校大学 日本大学 平成19年3月卒

氏名 尾川 晃子
勤務先 公立阿伎留医療センター
出身校大学 帝京大学 平成18年3月卒

氏名 江口 絢子
勤務先 公立阿伎留医療センター
出身校大学 福島県立医科大学
平成21年3月卒

氏名 山名 陽一郎
勤務先 公立阿伎留医療センター
出身校大学 日本大学 平成22年3月卒

氏名 矢作 善之
勤務先 公立阿伎留医療センター
出身校大学 川崎医科大学 平成23年3月卒

氏名 坪川 民治
勤務先 多摩リハビリテーション病院
出身校大学 杏林大学 平成6年3月卒

氏名 江藤 英児
勤務先 奥多摩病院
出身校大学 産業医科大学 平成6年3月卒

氏名 平岩 直也
勤務先 公立阿伎留医療センター
出身校大学 杏林大学 平成18年3月卒

【退会会員】(正会員)

氏名 村守 史彦
勤務先 (医財) 良心会 青梅成木台病院

氏名 永井 俊彦
勤務先 奥多摩病院

【退会会員】(準会員)

氏名 川口 卓治 (死亡)
勤務先 (医社) 救人会 東青梅診療所

氏名 妹尾 壽
勤務先 (医社) 救人会 東青梅診療所

氏名 三輪 俊博
勤務先 (医社) 救人会 東青梅診療所

氏名 藤原 正識
勤務先 奥多摩病院

氏名 七野 浩之
勤務先 公立阿伎留医療センター

氏名 笹森 寛生
勤務先 公立阿伎留医療センター

氏名 植草 省太
勤務先 公立阿伎留医療センター

氏名 武藤 智和
勤務先 公立阿伎留医療センター

【管理者変更】

奥多摩病院
(新) 井上 仁
(旧) 永井 俊彦

氏名 富田 崇志
勤務先 公立阿伎留医療センター

【法人化】

氏名 春日 悠岐
勤務先 公立阿伎留医療センター

(新) (医社) 賢洋会 奥村整形外科
(旧) 奥村整形外科

氏名 小松 太一
勤務先 公立阿伎留医療センター

【廃業】

氏名 滝浦 復平
施設名 滝浦医院

【名称変更・管理者変更】

(新) (医社) 福聚会 神明台クリニック
柴 正美
(旧) (医社) 福聚会 塩澤医院
塩沢 三朗



表紙のことば



『見納の吉野梅林』

今春を最後にウイルスに冒された梅の林は伐採されることになりました。この3月末日に当分見ることが出来なくなる梅林を見に行きました。すでに伐採されたところもあって例年よりやや寂しい姿でしたが、往年の優美さが偲ばれました。

坂本保己

あとがき



ある年齢になるとシルバー割引なるものがある。安い料金で映画を観たり割安の飛行機料で旅に行くことができる。有り難い年齢になったものだと思っている。このことを高校の友達に話したら、あまり感心しない表情で、「医者はいいな。いつまでも仕事が出来て」と羨まがられた。都心のマンションに住む彼は毎日が日曜日。仕事をしないで暮らす日々が退屈のようだ。私には羨ましく思えるが……。40歳代から糖尿病を患い食事療法を続けながらインシュリンの自己注射をしている友達は、万歩計を携帯したウォーキングを欠かせない。長い通院歴のせいか医者以上に糖尿病全般のことに詳しく理解して、それを実践している。十分な蓄えはあるが出費も控えて生活している。

終戦直後に生まれた団塊の世代は、ついに高齢者の仲間入りとなり、日本の高齢者率は24.1%に達している。高度経済成長とバブル崩壊を経験し日本の経済の発展に尽くした世代は、いまや非生産人口で年金、医療費などは若い人に支えられている。国民一人当たりの医療費は30.1万円、70歳以上の医療費は80.4万円。団塊世代の高齢化を迎え医療費の増加が心配である。

日の出町 馬場内科クリニック 馬場眞澄

お知らせ

事務局より **お知らせ**

保険請求書類提出

平成26年 6月（5月診療分） **6月9日（月）** 正午迄

平成26年 7月（6月診療分） **7月9日（水）** 正午迄

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 堀 克己先生による法律相談を
毎月**第3木曜日**午後2時より実施いたします。
お気軽にご相談ください。

◎相談日 **5月15日（木）**
6月19日（木）
7月17日（木）

◎場 所 西多摩医師会館
◎内 容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・
刑事に関するどのようなものでも結構です。
◎相談料 無料（但し相談を超える場合は別途）
◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
（注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

社団法人 **西多摩医師会**

平成26年5月1日発行

会長 横田卓史 〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-167-12 TEL 0428(23) 2171・FAX 0428(24) 1615

会報編集委員会 奥村 充
近藤 之暢 鹿兒島武志 鈴木 寿和 馬場 眞澄 菊池 孝
土田 大介 渡邊 哲哉 松崎 潤 湯田 淳 進藤 幸雄
松本 学

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22) 3047・FAX 0428(22) 9993

[SIMPLE] × [SPEEDY]

クオリス
Qualis
 Medical Station

日々の診療を支える
 電子カルテ、「クオリス」。



＜製品の特徴＞

- わかりやすい・操作しやすい画面レイアウト
- 診療アラーム機能搭載
- 使いやすい
- 外注検査のオンライン（指定検査会社）
- 安心のサポート体制、セキュリティ構成



株式会社 **ビー・エム・エル**

インフォメーションセンター
 TEL: 049-232-0111

健康が 21世紀の扉を開く



命の輝きを見つめ続けて・・・
(株)武蔵臨床検査所

食品と院内の環境を科学する
F・S サービス

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8
 TEL 042-964-2621 FAX 042-964-6659



FOR QUALITY OF LIFE
SINCE 1955

臨床検査のフロンティア
保健科学研究所は
21世紀の医療と健康を
バックアップします



株式
会社 保健科学研究所

● 本 社 〒240-0005 横浜市保土ヶ谷区神戸町106 045-333-1661 (大代表)

alfresa



あらゆる生命が求めるものを
健康への願いを込めて大切にお届けします。

アルフレッサ株式会社

〒101-8512 東京都千代田区神田美土代町7番地 住友不動産神田ビル13F・14F・15F TEL.03-3292-3331 (代)